



大阪部会(第 25 回)

日 時: 2011 年 10 月 8 日(土) 18:00~20:00

場 所: 同志社大学 大阪サテライト

【内容要旨】

第 25 回の大阪部会は、当初予定されていた 9 月 3 日が台風により延期となり、約 1ヶ月遅れの開催となった。参加者は 12 名。

- (1) まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表から、8 月に実施された「先生のための夏休み経済教室」(東京証券取引所との共催、日本銀行との提携)の結果について報告された。名古屋、福岡、大阪、東京の合計でのべ 1 千名近い参加者を集め、毎年規模が大きくなっている。今年度初めての試みとしてプログラムに取り入れられた「地理歴史を経済の視点から読み解く」(篠原代表担当)や、昨年よりも拡充された大学入試問題解説(西村理氏担当)、林敏彦氏(同志社大学)に依頼した震災関連の講演などについて紹介された。合わせて、入試問題においても、また高校教科書においても、「競争」のとらえ方に問題があるものが多いことが指摘された。
- (2) 今年夏の経済教室の東京会場においては、大阪から李洪俊氏(大阪市立長吉中学校)、奥田修一郎氏(大阪狭山市立南中学校)が講師をつとめ、東京の教員との質疑の機会がもうけられた。両氏から、発表内容とその後の質疑の様子について報告された。毎回授業のネタと教科の体系や連続性との関係、ゲーム的なネタと評価や試験との関係など、たいへん興味ぶかい重要な意見交換があった。
- (3) 篠原代表より、読売新聞社と協力して、新聞記事を活かした授業教材を作成中との報告があった。生徒が自分で調べ読んで考えるための教材として、新聞記事はもっと使われてよいとの意見が出された。
- (4) 松井克行氏(大阪府立旭高等学校)より、当日東広島市で開催されていた全国社会科教育学会全国研究大会の様子が報告された。
- (5) 9 月 3 日に予定されていた部会では、北川博士氏より、京都府立すばる高等学校に 2009 年に新設されたファイナンスコースの考え方とカリキュラムについて紹介されることになっていた。本日北川氏が出席できなかったため、研修受け入れ先であった野間敏克(同志社大学)が概略のみ紹介した。
- (6) 『経済セミナー』に、経済教育ネットワーク所属の中高教員による連載「中学・高校の経済学教育」が掲載されている。雑誌公刊一定期間後、ネットワークホームページ上でみられるようになる予定である。
- (7) 夏の経済教室で篠原代表が担当した「地理歴史を経済の視点から読み解く」では、中学の教員向けには江戸時代の三大改革が、高校教員向けには高橋財政と金本位制との関係などが取り上げられた。これを生徒に教えるにはどのような改編や簡略化が必要かについて議論があった。また、地理関係での経済教育の活かし方についても議論があった。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2011 年 12 月 10 日(土) 16:00~18:00 場所未定